志す宇宙は無限 11月号

令和８年度
発行：楠葉高等学校 宇宙部

北海道宇宙サミット２０２６
楠隼高校の代表２名が登壇

北海道帯広市で10月15、16日、「北海道宇宙サミット2026」が開催され、楠隼高校から宇宙部部長を含む代表生徒2名が出席した。同サミットへの参加は昨年度に続き2回目となった。

参加したのは、校内選考で選出された高校2年の上釜澄真と、宇宙部部長の新城孝紀の2名。開催前日の14日には、北海道大樹町にある「北海道スペースポート（HOSPO）」でロケット組立棟の披露式が同時開催され、参加者は見学バスツアーを通じて最新の施設を視察した。

サミット当日は、宇宙産業の第一線で活躍する関係者が多数集まり、登壇者によるトークセッションや各企業ブースでの事業紹介が盛大に行われた。

このうち「トークセッション～宇宙産業を学ぶ、全国4高校の活動発表～」において、楠隼高の2名が登壇。同校が取り組む「宇宙学」をはじめとする特色ある教育活動について発表を行った。また、別会場で行われた「海外登壇者と高校生の交流会」では、海外の宇宙産業関係者へ向けて英語でのプレゼンテーションも披露した。

《上釜澄真》

北海道宇宙サミットに参加して、宇宙産業に限らずさまざまな業種の方々と交流することができた。見知らぬ高校生が近づいていっても、快く対応して興味深い話をしてくださるような懐の深い人ばかりだった。対して、私は相手の話を聞くばかりで相手に提示できたものは少なかった。

今回の経験で社会に出るためには専門以外でも幅広い見識が必要なことを実感した。これから幅広く修養を積んで、会話で相手に刺激を与えられるような魅力的な人間になりたい。そのことが結果的に自分の利益になると思う。

《新城孝紀》

今回のサミットへの参加は、自身の将来や部活動のあり方を深く思索する大きなきっかけとなった。

私は将来、ロケット工学の分野へ進みたいと考えている。しかし、実際のサミットでは工学系にとどまらず、金融やサイバーセキュリティ、宇宙旅行を手がける企業など、実に多様な形で宇宙産業に関われることを実感した。

また、本校は他校との交流機会が比較的少ない。それだけに、全国の高校生と直接つながりを持てたことは極めて貴重な経験だった。今回得た知見や人とのつながりを生かし、これからの部活動をより一層充実させていきたいと考えている。



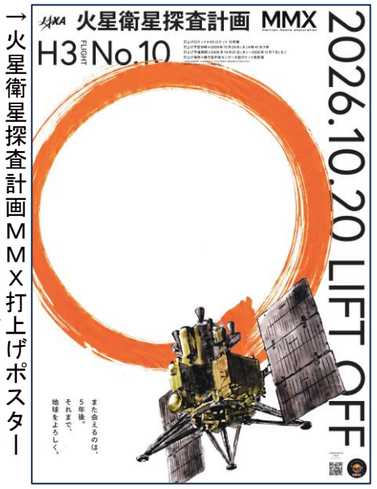
H3ロケット10号機 & 火星衛星探査機「MMX」、打上げ！

JAXA（宇宙航空研究開発機構）は10月20日4時41分03秒に種子島宇宙センターからH3ロケット10号機を打上げた。搭載されていた火星衛星探査計画「MMX」の探査機について、JAXAは所定の軌道に投入したことを確認したと発表している。

MMXは、火星の衛星「フォボス」に着陸して表面の物質を採取し、地球へ持ち帰ることを目指すミッション。火星の衛星からのサンプルリターンが実現すれば世界初となる。

フォボスは火星の表面から約6000kmを公転する直径約20～30kmの小さな天体で、本格的な探査がまだ行われていないことから、「太陽系で最も重要な未踏峰」と呼ばれることもあるとJAXAは述べている。

MMX探査機はフォボスへ2回着陸し、10g以上のサンプル採取を目指す。JAXAによると、火星圏への到着は2027年8月、地球への帰還は2031年7月の予定で、サンプルを収めたカプセルは小惑星探査機「はやぶさ」「はやぶさ2」と同様にオーストラリアで回収される計画だ。



→火星衛星探査計画MMX打上げポスター（画像：JAXA）


→打上げ準備中の10号機（画像：JAXA）

身近な宇宙
「はやぶさ2」、唯一のエンジン故障

小惑星を目指して航行中の探査機「はやぶさ2」は、唯一正常に作動していたイオンエンジンに不調が生じたことが10月2日にわかった。はやぶさ2は小惑星リュウグウの砂を持ち帰った後、別の小惑星の探査に向かっている。エンジンは全4基あり、今までも不具合が生じていた。

JAXAによると、不調は8月中旬に発生。今後は、不調が生じながらも地球帰還を果たした初代はやぶさと同じ「クロス運転」と呼ばれる方法で、運用継続を目指す。

はやぶさ2は現在、拡張ミッションを遂行しており2031年に小惑星「1998KY26」への到着を目指している。


↑「はやぶさ２」イメージ画像（画像：JAXA）

↑新聞アンケート二次元コード
みなさんのご意見・ご感想をお聞かせください。

宇宙からのささやき

～宇宙は世界中の人から、たった 80 マイルだ。
多くの人にとって、首都より近い。～

ダニエル・デュードニー

アメリカ合衆国の国際政治学者
鹿児島から東京まで約 1000km(621 マイル)



⇦宇宙部顧問の米満先生が鹿屋市からH3ロケット10号機を、シャッター速度を遅くして撮影した写真。鹿児島県は本土からも種子島のロケットの打ち上げを観測することができる。また、夜中の打ち上げは明るく発光しながら打ちあがるので、幻想的な光景となる。



宇宙の声 11月

★1 6日：おうし座南流星群が極大。一時間当たり3～5個程度流れる。6日の午後3時前に細い月が昇っていくが、細い月なため影響は少なく観測条件は非常に良好。11月5日の夜から6日の明け方にかけてが最適で放射点は南の空高くにある。一時間に3～5と出現率は控えめだが、流星はゆっくりと流れる傾向があり、明るい火球が見られる。

★2 14日：複数の惑星が集まって見える「惑星パレード」が起こる。

今回の惑星パレードで見える惑星は、水星、金星、火星、木星の4つの惑星で、小規模の惑星パレード。観測にお勧めな時間は日の出45分～60分前。見える位置は南東の低空から東の空にかけて。また今回は非常に明るい火星と木星がすぐ近くに大接近し、肉眼でも十分に観測することができるが最も低空にある水星を見るためには開けた土地が必要である。

★3 18日：しし座流星群が極大。一時間当たり10～15個程度流れる。全流星群の中で一番速い（秒速71km）ので特定の方角ではなく、空全体を広く見渡すことが観測のコツ。またお勧めの観測時間は18日午後2時～夜明けまでで街頭やスマートフォンなどの光を避け、目が暗さに慣れるまで空を見上げると見つけやすくなる。11月下旬の夜明け前は非常に寒いため、厚手の上着などの防寒対策をしていくとより楽しめる。

★4 24日：満月（ビーバームーン）

名前は、冬に備えてビーバーがダムを作り始める時期や、毛皮用の罠を仕掛ける時期だったころに由来している。占いの分野では、人間関係の安定や冬支度になぞらえた「計画・備え」に良いとされている。